

牛久：学校周辺に見る自然

第62号

ひたち野みずべ公園(ひたち野うしく小)

2021年3月16日発行

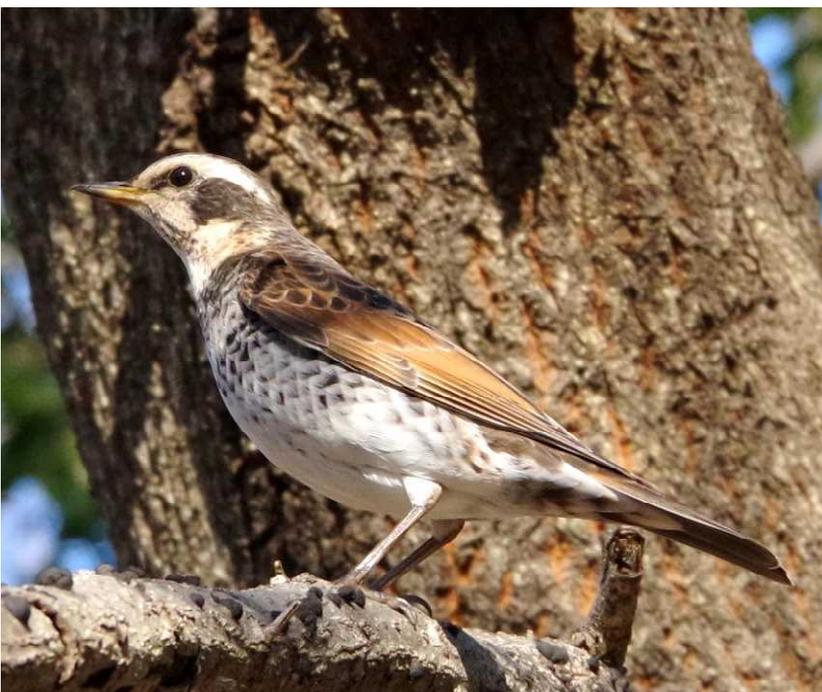
< 野鳥は冬でも活動している ~冬鳥 >

ひたち野うしく小4年生と歩いた、冬のみずべ公園。今回は、鳥です。ほとんどの鳥は、冬でも活動しています。鳥は長い距離を移動できるので、北の国からやって来て厳しい冬を日本で過ごす冬鳥もいますし、寒い山から平地に降りてくるものもいます。また、移動せず、ずっと同じ地域で暮らすもの(留鳥)もあります。観察の日、みずべ公園でもいろいろな鳥があらわれました。まずは、冬鳥から紹介しましょう。



ツグミのなかまで冬鳥のアカハラ(上2枚)とシロハラ(下)。

林の中で、地面をつついてエサを探していたのは冬鳥のアカハラとシロハラ。どちらもツグミのなかまでよく似ていますが、アカハラはお腹がオレンジ色なのに対し、シロハラは文字通り白いです。同じく冬鳥のツグミは、林だけでなく草はらや芝生でも地面をつついていましたね。校庭でもよく見られる冬鳥です。



校庭にもよくやって来る、冬鳥のツグミ。



庭にもよくやって来る、冬鳥のジョウビタキ（おす）。オスもメスも、なわばりを持つ。



その他、冬鳥ではジョウビタキのおすとカシラダカもいました。ジョウビタキは家の庭でも見られ、オスもメスもなわばりを持つので、人に気づいて逃げて、また近くにもどってくることも多いです。カシラダカはホオジロのなかまで、頭の羽が立ち上がって高くなるからついた名ですが、これは緊張すると立つのだそうです。

緊張すると頭の羽が立ち上がって高くなる、カシラダカ（頭高）。



この日、冬鳥のカモは少なく、ヒドリガモだけ見られた。

カモの仲間はカルガモ以外は冬鳥と考えるとよさそうですが、この日はヒドリガモしか見つかりませんでした。いつもだと、コガモやハシビロガモ、オカヨシガモなどもよく見られるのですが…。



冬鳥ではありませんが、山から平地に降りてくるものでは、アオジがいました。草のタネや、地面の虫などをつついていました。

【理科支援員：宮内】

山から平地に降りてくる、アオジ。こういう鳥を漂鳥（ひょうちょう）という。